



TITLE:

<教室通信>特色入試の導入と実施について

AUTHOR(S):

木本, 恒暢

CITATION:

木本, 恒暢. <教室通信>特色入試の導入と実施について. Cue 2016, 36: 59-59

ISSUE DATE:

2016-09

URL:

<https://doi.org/10.14989/217614>

RIGHT:

教室通信

特色入試の導入と実施について

電子工学専攻 木 本 恒 暢

京都大学では、高等学校における幅広い学びと接続したいいわゆる「高大接続型」の入学選抜の一つとして、平成28年度入試より全学部で特色入試を導入し、実施しました。本特色入試では、多様選抜の一環として、従来の一般入試（筆記試験）だけでは測れない能力を評価することを目指しました。入試の実施内容は完全に各学部任せ、高い数学能力を求める学部や長文の英語読解力と思考力を求める学部もありました。工学部では平成24年頃から本格的な議論を始め、「将来、世界を牽引するグローバルリーダーとなり得る特筆すべき能力、リーダーシップと高い基礎学力を持つ人材」を求めることとし、科学技術に関する顕著な活動実績とセンター試験の成績を総合して選抜する推薦入試を導入しました。本稿では、電気電子工学科で実施した特色入試について簡単にご紹介申し上げます。

上述のように本特色入試は単なるAO入試ではなく、推薦入試として実施しました。所属する高校の校長先生の推薦書を求め、合格した暁には必ず入学していただくという制度です。各高校校長が本学電気電子工学科に推薦できる人数を1名とし、本学科の募集人員は5名としました（なお、電気電子工学科全体の入学定員は130名です）。つまり、もし特色入試で5名の合格者が出た場合には、一般入試の募集定員は125名となります。初年度でもありますので、一般入試に過度な影響を与えないように配慮しました。11月初旬に出願、書類審査とセンター試験を経て、翌年2月10日に合格発表を行うというスケジュールで実施しました。したがって、もし本特色入試が不首尾であったとしても、一般入試の受験（2月25、26日）を妨げないようにしています。

本学科では、出願および推薦の要件として以下の項目を設定しました。

- ・高等学校または中等教育学校を平成28年3月卒業見込みの者（いわゆる現役生）
- ・人格・識見ともに特段に優れている者
- ・特筆すべき能力、リーダーシップと高い基礎学力を有する者
- ・授業科目の一環として実施した課題研究や科学に関する課外活動において顕著な実績を挙げた者
- ・本学電気電子工学科での学びを強く志望し、合格した場合は必ず入学することを確約する者

この中で、「授業科目の一環として実施した課題研究や科学に関する課外活動において顕著な実績を挙げた者」がポイントとなります。この実績を客観的に示すエビデンス（賞状のコピーなど）を上記の推薦書や調査書と一緒に提出してもらいました。また、出願時には京大入学後の学修計画や将来の抱負を記述する「学びの設計書」（京大特色入試において全学部で設定）の提出も求めました。

選抜は提出された書類の審査に重点を置き、まず提出書類をA、B、C、Dの4段階で評価しました。この後、A評価の者の内、センター試験の合計得点が80%を越えた者を合格者としました。

初めての試みであり、まず多くの高校生に出願してもらえるかどうか懸念しました。そこで、工学部特色入試パンフレットの作成と全国の高校への送付、各種入試イベントでの広報活動に加えて、本学科の先生方にもご協力をいただき、母校を訪問してアピールしてもらうなどの準備を行いました。この結果、12名という工学部の中では群を抜く数の出願者がありました。11～12月に慎重に書類審査を進め、センター試験を経て最終的に3名の合格者を出しました。3名とも大変優れた活動実績を挙げておられると伺いました。

特色入試と一般入試により、やや異なる能力を有する学生が電気電子工学科で出会い、お互いに切磋琢磨することによって相乗効果が発揮されることを期待いたします。今後も科学技術に対する高い興味と勉学意欲を持ち、優れた活動実績と高い基礎学力を兼ね備えた多くの高校生が、本学科での学びを志望してくれることを強く願っています。産官学の先輩諸氏の皆様方におかれましては、本特色入試にご期待いただくと共に、より一層のご支援と御鞭撻を賜うことができれば幸いです。